



# 水辺に生きる動植物の図鑑をつくろう

春～秋

## 観察記録用紙の参考例

観察記録用紙	<b>記入例</b>
<b>水辺の生き物</b>	No.
名まえ(科名) アメリカザリガニ(ザリガニ科)	
スケッチまたは写真	
	
・調査した場所 茨城県自然博物館(坂東市大崎) ・調査した日 2007.7.7 ・天気 曇り 気温 25℃ 水温 23℃ ・どんなところにすんで(はえて)いたか? 田んぼのわきの水の流りにすんでいた。 ・気づいたこと 1対目のほさみは大きく、2,3対目のほさみは小さかった。ひっくり返すとお腹にもあしがあった。	

動くものを撮影するときは、一人が押さえるなどして、友だちと協力する。

近くのを撮影するときには、接写モードにしてから撮影する。

スケッチは対象をよく見て、細かいところまで描くようにする。

気づいたことは、何でもよいので記入しておく。

例えば、

- ・こんな鳴き声が聞こえたよ。
- ・さわってみたらこんな感じがしたよ。
- ・こんなにおいがしたよ。

など

**⚠ 1人で水辺で観察するのは危険です。必ずグループで行動しよう。**

## 参考資料

### 水辺でみられる動植物

動物			
			
<b>アメリカザリガニ</b> ザリガニ科 ハサミが大きく、からだがり赤い。体長8～12cm。	<b>ドジョウ</b> ドジョウ科 5対10本のひげをもつ。腸呼吸する。体長10～15cm。	<b>トウキョウダルマガエル</b> アカガエル科 緑色の背中に黒い斑点が入る。体長4～9cm。	<b>カワニナ</b> カワニナ科 殻は細長く、褐色から黒褐色。殻高2～5cm。
			
<b>マルタニシ</b> タニシ科 表面に列状の小さな穴をもつ個体が多い。殻高2～6cm。	<b>ヘイケボタル</b> ホタル科 成虫は6～8月に見られる。幼虫の餌はカワニナ。体長0.7～1cm。	<b>ミズカマキリ</b> タイコウチ科 かま状の前脚と長い呼吸管をもつ。体長4～4.5cm。	<b>オニヤンマ(ヤゴ)</b> オニヤンマ科 幼虫として3～4年を水中で過ごす。体長4～4.5cm。

植 物			
			
ヨシ イネ科 <花期8~10月> 別名アシ。池や沼、川岸などに生える。高さ1.5~3m。	オギ イネ科 <花期9~10月> 水辺に生える。穂はススキより大きい。高さ1~2.5m。	マコモ イネ科 <花期8~10月> 沼など水につかっているところに生える。高さ1~2m。	セリ セリ科 <花期7~8月> 春の七草の一つ。春の若い茎や葉を食べる。
			
ホテイアオイ ミズアオイ科 <花期8~10月> 葉柄がふくれる。淡紫色の美しい花が咲く。	ヒシ ヒシ科 <花期7~10月> 葉はひし形。白い小さな花が次々に咲く。実にとげがある。	ヒメガマ ガマ科 <花期6~8月> 雄花穂と雌花穂が離れている。茎の高さ1.5~2m。	コウキクサ ウキクサ科 <花期8~9月> 葉のように見えるのは茎にあたる。長さ0.3~0.35cm。
			
オモダカ オモダカ科 <花期8~10月> 葉は矢じり形で柄が長い。白色の花が咲く。	ウキヤガラ カヤツリグサ科 <花期7~10月> 茎は三角形で太い。花は茶褐色。高さ0.7~1.5m。	ミソハギ ミソハギ科 <花期7~8月> 葉は十字状に對生する。花は紅紫色。高さ0.5~1m。	ミクリ ミクリ科 <花期6~9月> クリのいがのような実をつける。高さ0.5~1.5m。

⚠ 注意が必要な動植物 ⚠				
				
マムシ(毒へび) クサリヘビ科 全長40~60cm。太くずんぐりしている。鏡形模様がある。	ヤマカガシ(毒へび) ナミヘビ科 全長70~150cm。褐色の地に黒、朱色、黄色の紋がある。	アマガエル アマガエル科 アマガエルを触った手で、傷口や目をさわると炎症をおこす。	マツモムシ マツモムシ科 とがった口で刺されると、ハチに刺されたように痛い。	ドクゼリ セリ科 若葉はセリと似ているので注意。間違っって食べると中毒をおこす。

## 参考となる本

博物館での野外観察シリーズ12『水の中の小さな生き物』（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）  
茨城県自然博物館環境学習プログラム集『里山自然発見』（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

[担当：小松崎・湯本]